

令和5年度 学校関係者評価 総括

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的

- 1) 看護学校の自己評価結果を元に、外部の意見を反映する学校関係者評価委員会を開催し、その意見を教育活動及び学校運営等の質の保証と向上に活用する
- 2) 学校関係者との連携により、特色のある学校づくりを推進する。

2. 学校関係者評価委員

規定	委員
教育に関し知見を有する者	大学教員養成センター 教授 看護大学校 副学校長
看護管理者経験者	臨地実習施設 看護部長
卒業生	卒業生（19 回生）
保護者等	保護者（76 回生）

3. 学校関係者評価実施日

評価日時：令和6年3月1日（金）

場所：3階講義準備室

II. 令和5年度 看護学校目標

1. ICTの活用による教育の充実と働き方改革
2. 学生の社会人基礎録力の育成：「前に踏み出す力」・「考え抜く力」・「チームで働く力」を育む
3. 広報活動と学生募集における質の高い学生の確保
4. 専門領域の強化による教員の実践能力および学校マネジメント力の向上
5. 臨床との連携の強化による卒業生支援（継続教育）

III. 目標についての取り組みと今後の課題

目標1. ICTの活用による教育の充実と働き方改革

取り組み	
	1) 業務の見える化・システム化・スケジュール管理 ・業務改善ワーキングを立ち上げ、全教員が参加し業務改善が必要な業務に関する意見交換の実施（3回実施） ・教員会議の運営方法の見直し ・業務改善として、ICTの活用と業務のタスクシフトを考慮し「出欠席管理方法の変更」「カリキュラム方法の収集方法の変更」を検討し実施 ・オンライン授業、オンライン学習保障を実施した。
	2) さくら連絡網の活用（さくら連絡網活用実績） ・学生への連絡内容、授業資料の共有、アンケートなど
	3) Wi-Fiの活用 ・学生用Wi-Fiを本格的に稼働した。また病院内のWi-Fiが利用できるよう整備

<p>評価</p>	<p>ICTの活用による教育の充実と効果的にICTを活用し、教員の業務軽減を期待し目標を立案した。前期に教員の業務改善ワーキングを立上げ、業務改善の課題を出し合い、改善を行ってきた。その中でも、教員会議の運営方法を事前にPC内共有ホルダーに資料を保存し、会議録に議題提案者があらかじめ入力をし、それを各教員がPCを見ながら会議に臨むように見直し、教員会議時間を短縮することができた。また、教員会議録の作成所要日数が減少する結果が得られた。次いで、R6年1月から出欠席管理を事務へタスクシフトした。教員が実際におこなっていることを見える化し、事務職員と検討を重ね実現した。</p> <p>その他、さくら連絡網を活用し、学生の健康管理・安否確認、アンケートの配布回収データ処理などを行い、作業量の減少につながっている。授業資料配布等も効果的に行い、業務の効率化だけでなく学生の資料の見やすさや学習のしやすさにつながる。さくら連絡網で、Google formsで作成したアンケートの配布、回収、集計を積極的に行うように体制を徐々に整備している。また、令和5年度より学生個人が所有するiPadでWi-Fiを自由に使用できるよう環境を整えた。さくら連絡網での配信や調べ学習がスムーズに行えるようになり、効果的な学習につながっている。今年度の3年生は紙のテキストを活用しているため、Wi-Fi活用状況が少ないが2年生以後は電子テキストになりWi-Fiを多く活用している状況である。オンライン授業も教員学生ともに経験を重ねスムーズに実施できている。今年度からは母体病院のナースィングスキルを視聴することができ、今後技術演習や、実習で活用したり、講義・実習において事前学習や事後学習に活用できる。また、Web上ミーティングを活用して、近畿グループ附属看護学校4校で公開授業を行い他校の教員と交流しながら、さらなる教育の充実を図っている。働き方改革の評価指標である超過勤務の平均時間は、増加している。これは、自己研鑽として申請していなかった超過勤務を適切に申請するようになったことで、超過勤務時間の増加がでたと考えられる。対策の効果ができるようにしていきたい。</p>
<p>今後の取り組みと課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善ワーキングで、問題を抽出し改善に取り組んだが、改善ができていないこともあり、次年度も継続して業務改善に取り組み、教員のライフワークバランスが取れるよう取り組みを図る。また、業務内容を変更した時点でマニュアル化し周知する仕組みづくりに取り組む。 ・出席確認については、学生が印鑑を捺印する出席簿と、講義で講師が出席を確認する科目別出席簿、学生が記載する欠席欠課届の方法で、学生の出席確認を行っている。重複する部分があり、必要性を考え、さらなる業務のスリム化を検討する必要がある。 ・ICTを導入したい業務の検討が必要である。しかし、さくら連絡網で契約している容量がオーバーしてしまうことも考えられる。学生との連絡ツールをどのようにしていくのかも検討含め討していく必要がある。 ・実習のカリキュラム評価は、ICT化ができていないため、次年度検討していく。

目標2. 学生の社会人基礎録力の育成：「前に踏み出す力」・「考え抜く力」・「チームで働く力」を育む

<p>取り組み</p>	<p>1) 自治会活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事：学生フォーラムの運営と学生支援
-------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書利用促進 <p>2) 研修等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ビブリオバトル」の開催 ・ 「看護を語ろう」の開催 <p>2) 学校生活・履修状況の自己管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床ワーク参加の支援 ・ 出欠席状況の変化 <p>3) 保護者との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者との面談実施 ・ 社会人基礎力の現状調査の実施 ・ 保護者アンケートの実施
<p>評価</p>	<p>自治会活動は、コロナ禍で中止やオンラインでの実施となっていた行事が今年度は対面で行うことができるようになった。学生は経験値の無い中で、看護の日記念行事やクリスマス行事、戴帽祝賀会など企画運営を教員と連携を取りながら実施することができた。学生は、この自治会活動を通し3学年の学生の繋がりを持つことができた。また、ビブリオバトルや看護を語る会を通し、学生が自分の考えを言語化できる機会を多く設けたことで、発信力の育成や他者の意見を尊重することに繋がったと考える。そして、母体病院と連携し学生が臨床ワークを行うシステムの構築を行い、延べ26名の学生が参加している。以上より、新たなことにチャレンジしてみようという前に踏み出す力や、チームで働く力、考え抜く力の育成につながる取り組みはできたと考える。今年度の図書室の利用は、昨年度と比較し減少している。これは、eテキストになったことや、Wi-Fi環境が整ったため、タイムリーに検索を行えるようになり図書の活用が減少したのではないかと推測する。</p> <p>学生の出欠席状況は自己都合や無断欠席学生がこの2年間で増加している。当校は社会人が多く、子どもの体調不良や親の介護での欠席（自己都合）や、進路に悩んだり、態度面を繰り返し指導を行っても改善が見られない一部の学生によるものが大きい。また、単位に関係する科目のみ出席し、研修などは欠席してもいいという価値観の影響もあると考えられる。学習の取り組みに問題がある学生についてはタイムリーに保護者面接を行い、学生の学内での様子を保護者に伝え、教員も保護者の不安を聞くことができ、協力して学生の支援を行うことができた。</p> <p>社会人基礎力の自己評価では、3年生では傾聴力や柔軟力、状況把握力、規律性が4.0以上であり、実習を通しその力が高まってきたと考えられる。しかし、研修日の欠席者が増える等の現状があり、規律性が高まっていると言えない行動も見受けられる。今後も、各学年社会人基礎力が向上する取り組みを続けていくとともに、定期的に評価を実施し、リフレクションを行う必要があると考える。</p>
<p>今後の取り組みと課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会活動は、今年状況を継続するとともに、新たな取り組みとして地域の方々との繋がりも持つことができるように、地域活動にも目を向けていく。 ・ 学生が文章の読解力を高め視野を広げていくために、専門書だけでなく教養を高める本も購入し図書室の充実を図る。 ・ 出欠席について、学生の自己管理能力を高めるために、学生の価値観を理解しながら今後も引き続き自己管理できるように取り組む必要がある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・無断欠席が多い学生については、面接を行いルールに則った行動をとることができるよう指導していく。また、学習が困難な学生については、保護者との連携を今後も行っていく。 ・将来どのような看護師を目指すのか、保護者にも指導方針に対しての理解を深める機会をもったり、保護者連絡用のデジタルツールの導入を検討し、保護者とも密に連携を取りながら社会人基礎力向上に向けて取り組む。そして、社会人基礎力の調査を継続して行い、どのような経過で成長しているかを明らかにする。
--	--

目標 3. 広報活動と学生募集における質の高い学生の確保

取り組み	<ol style="list-style-type: none"> 1) ホームページ・Instagramの更新 2) 高校訪問・学生募集活動 高校訪問については学校職員で分担し指定校（25）校実施 3) 在校生参加のオープンキャンパスの実施 保護者や社会人対象の夜間オープンキャンパスの実施 4) 個別相談会の実施
評価	<p>令和5年度の広報活動と学生募集活動として、ホームページ・Instagramの更新、高校訪問、募集要項の配布、オープンキャンパス、個別相談会を実施した。ホームページ・Instagramは、月1回の更新を目指し取り組んだが、それぞれが11件の更新となっている。Instagramのフォロワーは263と少なく、課題が残る。</p> <p>学生募集要項については、推薦指定校25校には、教諭対象学校説明会および進路ガイダンス、進路説明会での配布、個別の学校訪問を行い配布している。また、22校の進路説明会に参加し、合計127名の生徒の参加を得ている。22校のうち12校は推薦指定校であった。推薦（公募）入試の募集要項については、近畿圏の高校を中心に204校に郵送している。今後は、在校生の出身高校など34校を追加している。</p> <p>オープンキャンパスの実施状況は、例年と同様に7回で、うち保護者や社会人対象の夜間のオープンキャンパスを初めて実施している。例年減少傾向にある参加者ではあるが、本年度は昨年度より参加人数が増加している。また、令和5年度後期から個別相談会を実施、19名の参加を得た。社会人の対象が多いが、11名が一般入試受験へつながっている。以上のように広報、募集活動を行っているが、入学試験の応募状況は年々減少している。</p> <p>今年度は一般後期入学試験も導入した。一般入学試験の募集の締め切り後募集要項を公開し、広報活動を行い12名の応募があった。応募者総数では、例年より減少しているが、一般後期入学試験を行った成果があった。今後も継続して広報、募集活動の実施と、受験生に選ばれる入学試験方法の検討や学校づくりを行う必要がある。次年度は、推薦指定校を21校追加する計画であり、3月から高校訪問を開始する予定である。</p>
今後の取り組みと課題	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、学生の学校生活をタイムリーにホームページやInstagramにアップできるよう計画的に取り組む。 ・次年度は、母体病院が広報業務を委託するため、ホームページやInstagram

	<p>などを委託先のアドバイスをもらいながら広報活度を行っていく予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校パンフレットの作成も、伝えたい情報を整理し、作成中である ・個別相談は対象者の希望に合わせて随時実施していく。 ・推薦指定校への高校訪問、高校教諭対象学校説明会の充実を図る。
--	---

目標 4. 専門領域の強化による教員の実践能力および学校マネジメント力の向上

取り組み	<ol style="list-style-type: none"> 1) 研究発表・学会参加・研究活動の実施 2) 研究時間の取得 3) 近畿グループ附属看護学校公開授業 実施・参加 4) 教員の研究授業実施 5) カリキュラム評価の共有 6) 実務研修・看護師長会への参加 <ul style="list-style-type: none"> ・各教員それぞれ計画した実務研修に参加 ・看護師長会に参加し、看護部の取り組み、経営状況を共有 7) インターンシップ、専任教員養成講習会の受け入れを実施
評価	<p>今年度は、3題の研究発表を行い、延べ33名が各種学会に参加し新たな知見を得た。また、学内での研究授業は3年目以上の教員9名全員が実施した。しかし授業研究の日程が後期に集中し過密スケジュールとなり、限られた期間での調整しかできず、参加人数が1名～8名とばらつきがあった。また、研究活動よりも他の業務を優先したため、研究時間を計画的に取得することができず計画は教員一人当たり年間約30時間であったが、勤務時間内での実績は教員一人当たり0時間～9時間と大きく下回った。とくに共同で研究する場合は、時間の調整をすることが難しく、研究時間をとることができなかつた。そのため、超過勤務や自己研鑽として研究活動を行っており、改善が必要である。</p> <p>実務研修を早期から計画し効果的なタイミングで研修に参加でき、日々の教育活動に活かすことができた。新たな取り組みとして今年度より教員も看護師長会へ参加することにより、臨床での看護管理の実際を知ることができ、経営面にも意識が高まり、学校マネジメント力の向上になったと考える。</p> <p>また、専任教員養成講習会の実習生2名と看護教員インターンシップを4名受け入れ、保健師助産師看護師実習指導者講習会にて2名の教員が助言講師となった。他者への指導や看護教育実践の言語化を通し実践能力の向上につながったと考える。</p>
今後の取り組みと課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究の日時を計画的に調整し、全教員が年間参加回数に対し目標を持ち参加できるようにする。 ・研究時間の取得30時間以上を目標とし、月初めに取得する日時を決めて申請するなど、具体的に決める。 ・実務研修は次年度も継続して行う。それぞれの計画にあわせ、複数日の実施などフレキシブルに実施し各自の能力向上に努める。 ・授業評価は授業終了時に、タイムリーに実施できるようにする。

目標 5 臨床との連携の強化による卒業生支援（継続教育）

<p>取り組み</p>	<p>1) ホームカミングデイの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度卒業生を対象に実施し（23）名が参加 ・今年度あらたに令和3年度卒業生を対象に実施し5名が参加 <p>2) 卒業生が来校しやすいシステム作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新人研修に教員が2回参加（5名、4名） <p>3) 学生のレディネス把握への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校講義への案内 ・実習指導者会議企画（臨地実習指導者の実習前研修への参加や実習まとめ会への指導者の参加） <p>4) 卒業後をイメージする取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定年退職を迎える看護部長・看護師長からの講演（講師4名） ・外部のキャリア支援者の導入
<p>評価</p>	<p>R4年度、母体病院へ就職した卒業生の退職数が多く、臨床と連携して卒業生支援を行っていった。卒業生が、職場環境に慣れスムーズに順応し、看護師としてキャリアを積んでいけるような関わりが必要である。</p> <p>ホームカミングデイへ参加する卒業生は、就職してからの悩みや不安を来校し、対処できる人であり、それが困難な人への対応が課題である。</p> <p>卒業後につながるように、現在教育担当看護師長が、3年生の卒業前看護技術研修へ参加し指導を行い、継続教育へスムーズに移行できるように考えている。また、母体病院の新人研修に加え、次年度は看護職員キャリアラダー研修に教員が参加し、卒業生の支援を行う体制をとることを調整している。教員の看護実践力の向上、教育実践力の向上も期待でき、臨床と学校の連携強化による人材育成が期待できる。</p>
<p>今後の取り組みと課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームカミングデイは、今年度と同じ時期に開催する。6月以降の実施も卒業生の意向を確認しながら検討する。ホームカミングデイに参加できない学生に対し、どう支援するかも今後考える必要がある。卒業生への情報発信など（同窓会の活用、同期の情報提供） ・病院の新人研修や看護職員キャリアラダー研修に教員も参加し、卒業生との関係を継続し、相談しやすい関係性を作り離職防止につなげる。 ・臨床スタッフや教育担当師長等、学校の講義や技術演習、卒業前の技術演習への参加がしやすくなるしくみづくり。

<総評>

学校目標に向けて、教職員が一丸となって日々努力し取り組んでいることが伝わる。臨床との連携では、学生が臨床ワークに参加できるなどの取り組みは評価できる。学生や保護者への過度なかかわりがなにか、学生の主体性を伸ばす指導を検討されるとよい。

また研究活動時間が計画より少ない結果となっているため、次年度は研究活動時間の確保、研究発表数が増えることを期待する。学生は、実習で出会う看護師や患者、家族との関係性の中で、看護学生として成長していくが、最初に出会う看護師は教員であるため、教員がいきいき働ける職場環境を整えていって欲しい。そして、選ばれる学校となるための広報活動のさらなる工夫を期待する。

学生、教職員ともに心理的安全性の高い教育環境の整備を行い、さらなる教育の質の向上を目指して欲しい。